

第3回佐久市立中学校運動部活動の地域移行協議会 会議録

日 時：令和6年3月5日（火）

午後1時30分～3時

場 所：佐久市消防署 3階講堂

出席者

委員（16名）

原 拓男	識見者（アテネオリンピックバスケットボール競技・女子選手団長、 元教育長職務代理）
宮島 卓朗	佐久市立浅間中学校 校長
北垣内 博	佐久市立中込中学校 校長
芝野 崇	佐久市立東中学校 校長
小林 新治	佐久市立臼田中学校 校長
佐藤 元昭	佐久市立浅科中学校 校長
山中 美佳	佐久市立望月中学校 校長
伊坂 倉一	（特非）佐久市スポーツ協会 会長
大塚 寛美	佐久市スポーツ推進委員 会長
篠原 一郎	NPO法人もちづき総合型クラブ 理事長
萩原 和章	NPO法人もちづき総合型クラブ（学校運動部活動指導士）
土屋 岳	岸野スポーツクラブ 会長
原 暁生	佐久平バレーボール協会 総務委員長
澤尾 光弘	佐久バスケットボール協会 理事長
塩川 元弘	佐久地区剣道連盟 会長
柿沼 宏直	東信教育事務所 生涯学習課

事務局（7名）

吉岡教育長
スポーツ課 木内課長、三浦スポーツ推進係長、神津
文化振興課 武石文化振興係長、太田
スポーツ協会 吉澤事務局長

1 開 会

2 あいさつ 教育長、原会長より

3 協議事項

(1) 第2回協議会の経過確認【資料1】

(2) 部活動地域移行のアンケート調査等の結果報告について

【資料2, 2-(1)～(5)、資料3】

(3) 令和6年度佐久市立中学校 運動部活動の地域移行について【資料4】

(4) 質疑・意見交換

(1) 第2回協議会の経過確認

資料1について事務局より説明

(2) 活動地域移行のアンケート調査等の結果報告について

資料2, 2-(1)～(5)について事務局より説明

【委員】

細かい部分についてはよく見ないといけませんが、例えば保護者は5,000円までなら出してもよいと思っっている方が多い、指導者について専門的な知識・資格を持っている方の配置を希望している、教職員は2,000円以上の報酬を希望、というような結果となっている。今後について、地域移行したときにおおよそいくらかかってくるかなど、概算を出していただかないと厳しい面がある。地域に指導者となってくれる方がいるのか、市で補助金がいくら出せるのかなど具体的に考えて行かないと、スケジュールの資料にあるように動いていけるのかという心配がある。アンケートの結果から次の一歩を考えて行く必要があると思う。

(事務局)

今回のアンケート結果を基に、どんなフレームが一番よいのか検討していく。競技毎に規模や場所など状況が異なるので、競技別に「部会」のような場を設け、関係者の皆様、顧問、保護者、市の担当を含めて相談していくのがよいと考えている。

【委員】

資料1、前回の協議会概要の下部に記載があるように、地域移行について状況を知らない人が多いので指導者へのアンケートを作るべきだと申し上げた。地域移行を進めるにはすべてを統括していく必要があるが、今現在の指導者にそういった課題のアンケートを取る予定はあるか。

(事務局)

指導者への説明や情報提供は、必要なことだと思っているが、アンケートという格好で行うのかについては検討中である。部会の中に入れていただくことも一つの手法だと考えている。競技等により状況が様々なので一概には言えないが、情報は発していく。

【委員】

アンケートにするのかは別として、情報発信は大事なことである。また、実際に指導している方の生の意見を聞くチャンスがあればと思う。

【委員】

次の資料で「佐久市の部活動地域移行に向けた方針」が出ることになっているが、これが肝で、今は市がどのように地域移行の姿を捉えているか全く伝わってこない。先生方や連盟・協会の皆さんと話す中で、本当に指摘が上がっていることである。前回の会議録で現場に丸投げしているのではないかとの辛辣な話もあったようだが、合同部活で行くのか、拠点方式で行くのかなど全体の大まかな柱が立ってこないと連盟や競技団体、先生方としても動けない。一定の方針を示していただくことで、現場で携わる人間としては具体的な話がしやすいと思う。

県内のある市でも平日の学校部活動も学校から切り離すところもあるが、現場のものとしては乱暴かなと思う。佐久市では令和9年度以降の学校部活動地域移行という非常に曖昧模糊な書き方をしている。学校側では当事者である佐久市に仕事を丸投げしているわけではなく、協力もしていく。現場のことはご存じないと思うが、職員の8割は部活動の顧問は厳しいと思いながら、文句も言わず毎日やっている。土日は1日2,700円で、一人一人の子どもの命に責任を持ち、ほぼ半日働いている。個人の予定などもある中、月に最低4日は潰れるが、子ども達のことを第一に考えて一生懸命やっており、自分のお金のことや働き方のことは言っていない。浅科中学校や望月中学校のように部活動が少ないところも、浅間中学校のように10も15も部活動があるところもあるので、佐久市内のどこの中学校に行っても同じようにできるような方針を示していただき、皆が議論しやすいようになればよいと感じる。スケジュールなどは現場としても賛同できるので、ぜひ大きな柱の方針を示していただきたい。

(事務局)

ご指摘の通り、佐久市全体の方針というのが見えてこないのが不安があるというのは最もだと思っている。6月を目途に市の方針を打ち出していきたいと考えており、その基礎となるものとして今回のアンケート調査を行ったので、今後の方針を考えて行く。

【委員】

今回の地域移行に関しての一番の希望は、持続可能な仕組みづくりだと前回も話したが、時間や人材、大会運営、施設などについて考慮し子どもの希望もある中で、そういった仕組みを考えていかないといけない。休日、平日で移行していくのではなく、一気に移行していく方法が良いと思うし、国や県に対してそういった予算立てをしていただくよう申請していく必要がある。課題になると思われる大会運営の関係だが、平日は学校、休日は地域で、となっていると誰がやるのかわからなくなってくる。そういったところも含めて一気に移行し、活動時間を18時～20時の形にして人材バンクの中で実際に社会体育的な形で実践してくのがいいと考えている。

(事務局)

社会体育のような枠組みやすべて一気に移行していくということについて、ご意見として賜る。今の段階ではできるところから地域移行していくことを考えているので、全てを一気にという部分は検討していく。

【委員】

バレーボール協会の方ではバレーボール部会を1月、2月に行い、実際に当協会の理事長はじめ役員の方々に入っただいて、いろいろ考えて意見を出していただいた。先ほどから話が出ている指導者への謝礼についても、令和5年度の部活動指導員の手当、時給1,230円を基準に考えていたらどうなっていくかということで少しご案内をした。例えば保護者から月謝1ヶ月1,000円の集金で行うとすると、指導者月4回×3時間の計算だと、大体1ヶ月で14,760円ぐらいが必要になってくる。そうすると1,000円で集めていくと、各チーム15人子どもが必要になってくる。1,500円ほど集金していくとなると、10人必要というところが計算上では出てくる。ただ、3年生については大体7月には多くが引退となるので、現実的に11ヶ月で考えてみると、時給1,230円で年間必要な額が大体177,120円、それを1,500円で集金をしていくと、大体1チームあたり11人となる。実際にバレーボール協会の方では来年度の8月からスタートできないだろうかということで具体的に会議を行って動いている。8月からにした理由としては、今の1年生、それと新1年生が丸々1年間近くそういった活動に関われるという目安であり、8月から7月の11ヶ月で見えていくのが一番いいと考えている。そして来年度の4月から7月までの間にも保護者も交えて準備をしていきたいと考えている。色々課

題が出るかもしれないが、8月に今の1年生が主体になったところでスタートできるように準備して、修正しながら進めていく。

お金の面では、市に入ってもらわなければ、協会側だけでは何とも判断しがたい部分もある。協会の方々も昼間は仕事をしているので会議の時間がどうしても遅くなってしまっているので、そういった方々の都合も合わせて市の方に入っていただき、実際に活動する側の人たちの不安と疑問等に対して耳を傾けていただき、ご意見アドバイスをしていただく会議にしていきたい。

(事務局)

具体的な計算など、現実的に踏みだしていただいております、ありがたい。バレーボール協会の皆さんが会議すでに行っていると伺っており次回の会議にはお誘いいただいておりますので、寄り添った対応をしていくよう考えている。

(3) 令和6年度佐久市立中学校 運動部活動の地域移行について 資料4について事務局より説明

【委員】

先日のバレーボール部会の中で、他の種目がどのように捉えているのか、どんなふうに関心しているのか、バレーボールだけがこういうやり方をしているのかどうか、というような意見が出ている。種目ごとに横の繋がりを持つ機会を設け、情報交換をしていくこと。特に団体競技と個人競技では、やり方が違うという部分もあると思うので、情報交換の場を持つようにしていければ、お互いにもっとこういうやり方があるということが検討できる。それを受けて協会内でも提案をいろいろ行うことができるのかなというところなので、ぜひこの地域移行に向けて動くため種目ごとでもいいが、横の繋がりを持つ機会を大事にして一緒に歩めるような場を設けていかなければということを感じている。

(事務局)

各部会で色々議論があると思うが、知って良かった点悪かった点などをこういった協議会の場で共有しながら進めるのがベストなやり方だと思っている。協議会に全ての競技があるわけではないので、新たに入っていただくなど体制を改めながら進めていくことを考えて行く。

【委員】

資料に「生徒との対話」があるが、非常に大事な部分だと思っている。我々がこうしよう、ということも結構だが、当事者本人たちの目線からの意見もとても大事なのではないか。

(事務局)

昨日の佐久市議会一般質問で部活動のことが取り上げられたが、その中で生徒との対話を考えていると答弁している。我々と生徒が直接対話し、他の学校でもオンライン参加してもらおうような場を提供できれば、多様な意見が出て議論も進んでいくので、対話というものを大事にできればと思っている。

4 その他

(1) 令和6年度の委員選任について

事務局より口頭説明

人事異動や役職者の交代について、情報提供を依頼。また、後任者への引継ぎを依頼。

(2) 質疑・意見交換

【委員】

この協議会の名前は「佐久市立中学校運動部活動の地域移行協議会」となっているが、ぜひ「運動」という部分をカットしていただき、文化部も入れてもらいたい。協議会の中にも合唱の先生がいるが吹奏楽系、特にマーチングを視野に入れていただき、スポーツ課の所管ではない、ということなくやってもらいたい。

(事務局)

アンケートについては運動部・文化部で、その都度アンケート取るのがとても時間や手間がかかるので一括させていただいた。現状では原則運動部のみで進めているが、文化部について担当部署もあるので、連携しながら進めていきたい。

【委員】

佐久市の部活動地域移行のモデルケースとして、剣道の現状がどのようになっており、どこまで進んでいるかお知らせいただきたい。先日関係者にお会いし、3月に講師を呼んで講習会を行ったり、動き始めるというお話を伺ったので、教えてもらえればありがたい。

【委員】

講師は長野県剣道連盟を通して、講習会をやったりして、どういう形を取れば一番理想的に、近くの会場で安全に進行できるかっていうところを検討はしている。そういう中で各市町村の中での考え方がはっきりしてくれば、そこに準じた講習会もでき、具体的な内容についての話し合いをしていかれる。佐久市には県立武道館があるので、できれば減免という形でいきたいと考えている。

【委員】

部活動の先生は状況が大変厳しい。厳しいが、これから話を進めていく中で各競技団体や各協会と筋道の話をする先生だけは作らないと話が進んでいかない。部活動をやりたいがやりたい種目がない、というアンケート項目があった。少ない人数ではあるかもしれないが合同部活動という話もある。人数は少なくとも希望者は今後活動できるように、そのような先生が必要である。

【教育長】

何点か申し上げたい。まず、先ほどご指摘いただいたスケジュールについて、前回話題になったので来年度早々に方針を文章で出していきたいと思っている。費用面については予算要求をしていかなければならないが、その際「地域移行に向けた方針」を示していくことが必要だと感じている。

また、情報交換ということで一覧表によりこの競技はこのように進んでいるというのをお示ししたいと思っている。先ほど剣道の話が出たが、剣道は細かく進んでいるので、そのような表をお示しして、参考にいただき「ここは真似しよう」「ここは難しい」とそれぞれあると思うが、ある程度揃えて進んでいくのがこの協議会の趣旨なので次回実現したい。

最後に「対話」についてだが、来年度の教育委員会のキーワードの一つは「対話」である。会議を含め、生徒同士、先生同士、生徒と先生など様々な対話があるが、自分から動ける子どもを育てていこうというのが基本である。文部科学省でよく使っている言葉で、「エージェンシー」というものがあるが、当事者意識をもって自分から一歩進んでいこう、そのような子どもたちを育てていこう、というのが私の理解。部活動も子どもたちの意見を参考にすることを考えて行く。その対話においても、アンケートのような基礎資料が大事で、子ども達は「この意見が8割だけど僕は違う」「私も同じ意見です」などアンケートを見て普段から感じていることを自分たちの言葉にしてもらおう。また、PTAについても議論というよりも対話という形で進めていきたいと思っている。

部活動の地域移行については、準備会の中から細かい課題が山のように出てきたが、6月には方針を示せると思っているなので、引き続きよろしくお願ひしたい。

5 閉会